小麦栽培技術体系の確立

加里。合理的施肥法

4). 前ほ大豆のカリ施用電と独作小麦の生育収置的関数パラクアイ農業総合試験品

1. 狭試材料

小麦r Anahuac

計

2. 施肥为理.

の前好大星の施肥餐

25 22.	核分	多望	KofAA	施艇	蓉	40/Aa
Nº.	N	P305	K>0	確容	图为	The Do
1.	40	90	0	200	529	0
2	ko	90	30	200	529	60
3	40	90	60	200	529	120
4	40	90	90	200	529	180
. 5	KO	90	120	00د	529	240
6	40	90	150	200	529	300

ياكل

(1)小麦施肥絮 多肥料

3 耕種法. 播種期 1986 · 5 · F旬 新植密度 煅幅 20 cm Fi) ν 糖 250 株/m²· 培土 10

培土 /

4.試験区配置法.

4 反復の叙塊法

1 尼面顏 12m2 (4m1×3m)

5. 20 te

作物体の分析(サンプツの保存)

小麦栽培技術体系の確立_

有機物の鋤込み効果然

5)、大豆样的鲫色斗量火小麦的生育必要

パラグアイ農業総合試験場

担当者: 陶節朗, 尾崎糞

190	18年度	
且	x to the o xD (I	電家 n 普遍的な大豆~小麦の作は体かた方 、麦の残稈の鋤込みが後地坐を力たおよなす
	影響を聞いかに	1 テーラロミア 土壌における地力維持対策モ
47	確立するため、 鋤込みの効果	本年度 4才4作目的小麦片对对及艾屋存
	1 Ben Corr of som the	E THE PI G & .

1. 按試材料

小麦. T Cordillera-3 上

2 17物或,釋《五學法.

输灯	2 49	大 趸.	小 煮.	大 翌	ル 友.
乒	2欠	1984/85	1985	1984/88	1906
鋤込み	鸡稗	小麦稈.	大豆稃	小 爱稗	大豆稈.
Sep .	0	0 Ks/ha	o Kaffe	0 13/10	0 19/Ac
冷	/	3450	2520	કેસદ	(۱عمد) معدد
1	2	5/70	4200	6173	4501 (5294)
(就物)	.3	6900	5880	7716	6000 (7059)

注: 1986年、大豆科乾物率 85% と12等出. 测定线桶正する

3.施肥处理。 残碍处理水準制 r.N (硫要) t 和当1) 0,20,40.60 ks 0 4 水準 x / P20s (過石) 60 kg k20(硫加) 级好 E 各 区 共 更 r. 施 图 寸 3 。

4.辩释弦. 播種期 1986.5.中旬 栽植饮及. 脏惕. 20cm /m/> 糖. 250株/m².

f.試験区配置法、 大豆稈鋤込み堂を大試験区N.施用室を 小試験区とする4页後の叙胞法による。

大課題上で1の栽培技術が確立 小課題病出第3回避方法Kon2の検討

就設可自病虫害の発生時期后らん。水門学方法ラグアイはまるかはない

	TO THE TAXABLE PARTY OF THE PAR
198	6年度 担当者:二井内, 边东佐
目	病策では対策細菌病。虫ではトマーガ、ハモグリバエの
37	被果の激しいので発生時期と防治表を検討する。
	供試品種のぞみノ号
-	/ 試験期间 86年9月~87年2月
計	/ 試験設計
ľ	1、 元子区2円(列(スケー) して
	1) 褲3消毒(55°(0)温满(25分)0别击
	a) Aminicara a 3th Fi
	Adrinie in (100/1/17/17/200240)
匣	Cupravil Azul (3500500 8) & Cupravil
-	A. 在中华用飞起转
	ロントマトガ、ハモブリバエバオして
	Caltap (100-2009), Lannate (1000
	2000(C) Calfrent (50~709) 577+177
	(到四部里, 港渡、李宝/日、散印時期と藥書)
	1 · .
}	1. 栽培方港。
	13行下準式3
2.	
.}	
} ;	

人即日トマトの栽培技術が本会の確立

小課題病民第の回避方法についての検討

鼓及項目面插作品種の遊応性に見する研究パラグアイ電が日本は

	0.0	5 年度	担当者:=井内, 流位
[7	前年度	の比較試験によって有望と認めたしなのあか、ブ 新自成品種Sta-Claraと紅手のう栽培されている
	티	ラジル	新自成品裡 Sa-Clara と が、それぞれの特性に
í	均	のぞみに	新自成品種Sa-Ctata とりのかりまれた。新自成品種Sa-Ctata とりなり、それぞれの特性に は完をすることにより牧量と比較する。

- しなのあか、Sta-Clasa (非心上川生) 供試品種 のどみ1号、 のはない (10年11年) 186年9月~187年2月.
- 試験期间
- 試驗設計

9月13日

- イ、播種期 9月13日 ロ、栽植庭師 1911カロラカ、ラわ同の追然1111、10石 12年植、各条ドランエリ性品種は360円間隔(10個等) 3000年)、心に11生品種は500円間隔(10個等) F1に植える.
- 八、仕立不 非心也十生治难 は1年代之, 二龙肥志 (1003m)

. 76310300 (10.		´				
	ر م	元	AZ/	追	肥	
胆补	全量	待肥	元肥	:/	2	_3
石双	8019	Ŋ	80 Kg	159	KJ	Kg
ジンリン	50		50		-	-
化效在(12:12:17	96	10	30			
化数 1×18:46:0	20		2 C			
花在	75			30	30	15
12 12	25	<u> </u>	<u> </u>	10	10	15
7		~	K G	201	100 ~	220

P: K 30.259: 30.118 = 27.959

大課題トマト教授技術体系の確立

37 B	
\\\	
財政項目トマト病害虫の発生と防除実能調查	the second secon
試験項目トマト死生スク発生と防除実態調査	パラグアイ奥業級人計数国
THE STATE OF THE S	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	, 1
	. 165

	J. 1	ハランプイ酸菜間合畝製房
86/8	7年度(新規)	担当者:佐藤克巴
目的	イクアス移住地日系農家の農産物の売上額をみ 火次ルで、高く、3.3億円、水産して、3.3億円、水産して、3.3億円、水産して、3.3億円、水産して、3.3億円、水産、水産して、3.3億円、水産のトマトを産場がは現代である。 が、より低コスト、より食品安全性の高いトマー 立と強く望んでいる。本調査は、この要望、答さ 上同時に、病害虫の防除、指導に役立っ、基礎資 作、軟体におよび、関繁作行羽年度の炭影に 中における病害虫の発生と防除の実態を把お 油にて、トマト病害虫防除カルテの作成指	ICA需求経済調查)。 の維持、拡大を期また 上裁・接技術が体系の確 る試験研究のあり方 料を得るために、トスト連 場と選び、全作付期間 をする、なお、この核会を
試驗 計画	1. 調查期間 1986年11月~1987 2. 調查对象最易证货 2. 制查对象最易证货 3. 上文上郵作日場 3. 上文上作行初年度证货(開墾境) 4. 名の他上文上作行农家日货	(田)
	1) 発生病害虫とも、盆生消長(組続 2) 使用農薬の複類成分,価格、散布湯 3) 防除時期, 回数 が心に撃 効 達年	级,成为国家以收取的15.14。

大課題トマト栽培技術体系の確立 小課題病第出の祭生実態と防除法に関する検討 戦験省自致症細菌病がお病の発生策と防除試験

86/80	,年度(新規)	担当者	: 佐藤茏巴
目的	トクト教悟上の難防門様相も明らかれてるとよう	病養である斑点の菌病とかけう病に、「賃行剤 Cu, Agnimicina。 適用剤の抗花性、体染標式	2亿层劲力。4
	1. ほ齿形除劲果試 1. 試験場的 2. 使就品程 3. 試験期間 4. 試験設計	場内畑は掲 のそ41号(芯止り型、作件で 1986年11月11987年3月	
彭	(n) 供就灌溉	Cupravit Azul (Cuti), Agni Kasumin-Bordeaux Ctita)	
簸	四意东	No.1 : Cupravit Azul x30	70
it		NO.2 : Agrimicina X500 - NO.3 : Cupravit Azul X500 X1.000	+ Agrimicina
围	(3)耕複概要()	Mo.4: Kasumin-Bordeaux 施肥栽培管理) 竹行为某士	
		1832株(16m²)、2運制 方法 面初某の初期発生時小心週1	~ 207 NE'K, A
	(6) 章周查項目.方污	夏式動力噴霧枝で100台。」 で放布する。 と り、肉病素の発生時期、発病病状と病毒	
		2) 発病禁辱, 発病度調查 (等剂· 3) 弊 笔 (张生好期, 东北上, 程) 4) 一收 玩笔坐(就聚, 对缘病差升	放布附定日每) 多)
	の備を	本試験目站100一般病是生16份	#.计算行法上洋
	2. 星内 私心小規	模式的試験(発生器、传统	基礎核討)

2) 試験項目 (1: 大工・理・2(のたま13.) 19生育液の同足 (2) 面無原細菌の単離・同足 (3) 面病原細菌の単離・同足 (3) 面病原細菌を対する Agrimicina Agrimicina + Cu Lido (本統) 核茎 (4) 面病原細菌を対する Agrimicina Agrimicina + Cu Lido (大ないいいのおきに対する 大変を対する 大きなの対象を (4) 面病差によいかいで病の伝染が行政への対象が のいで染液・ですのが、取し、発病試験 のいで染液・ですの作成と、発病試験 のいる染液の作成と、発病試験 のいる染液の作成と、発病対象 のいる水水原で、から、水水原で、現る、水水原で、水水原で、水水原で、水水原で、水水原で、水水原で、水水原で、水水原	1)	試驗期間 1986年12月~1987年
(系統) 振走 (系統) 振走 (公) 両病原網菌に対するAgrimicina, Agrimicina+Cu tito (公) 上記を深刻の回病差に対する ボット法での効果模定 (公) 両病第、といかいう病の伝染・構成についての検討 のご注注をの作成と発病試験 のご深土なの作成と発病試験	2)	かトナー箱子(のその1号)はは花箱の同年
(3) 両病原細菌に対すらAgrimicina,Agrimicina+Cu I'su Kasumin-Bordeaux の抗抗力核定 の)上記る策制の両病意に対するポット法での効果核定 (6) 両病実、といかいう病の位学、構成についの核討 の)汚染液多の指取と発病試験 のシラ染土物の作成と発病試験 の済染土物の作成と発病試験		(2) 阿丽原細尼の卑離·同足 (3) 阿丽原細尼の簡易接種、発病法の確認病原性 (平統) 場定
②済楽土後の作成と、発情試験		(4) 雨荫原细南rx + b Agrimicina, Agrimicina+Cu titu
②済楽土後の作成と、発情試験		の)上記を発動の関拓を双するホットはでの効果機定 (6) 国府第一とにかいう施の位等、構成についの類計 の)で注述すの採取と発布試験
のトフト表接とおりな作業管理と発病との関係		②33字主版の作成と 気垢試験
		のトマト教授トおける作業管理と発病もの関係
lacksquare		

大課題トマト教培体系の確立 小課題病態はの発生実態と防除法に関する核討 鼓殿副自 为小汉族《発生横相上防除試験 担当者: 佐藤克己 8%7年度新規 トマト栽培上の難防除病害と17 依染方法中病原ウルスを異Kする種ウルス病が発生する。本試験では、の女育虫の発生動向とウ別くる病の発生科相、②病原ウルスの種類同定、③他毒性聚藥を核索し、より安全で、効果的な病害虫防除対策K資する。 4) 試驗場所 場內畑間場 2) 試驗期間 1986年11月~1987年 3月 3) 供試品種のかみ1号(芯止まり型,作付優占種) Fluradan 5% Hall. Orthere wp. Aproad wp Hifle 4) 供討張樂 的最近似的人,Folidal, thiodan, Azadrin to 電电较完较 古 慣行剤の定期散布 (2) NO.2: Fiuradan 5% 起剂, Orthene wp. Aproad wp & NO.1 K 明記 1 东各剂 色 徐人, 我生 获石 惯行剂 の定期散布 6) 耕種粮電(施肥、栽培管理) 慣行 X 準介 6. 2) 区制面積 1区 38株 (16m²), 2 連制 8) 处理月日,是,方法 Furadan 5% 籽削 (是植時株当) 29 9 植大土 ·康混和)以外的,了个个定植後片背负式動力噴霧楼。 主用心,100当长少100~350人の割后、散布了方。 (1) ウイルス病女茶方虫の発生消丧(初菜時寄主植物の研設。 トマトでの発生動向一寄生程度別調查) (2) 內机人病。発生消養(発生程度別發病株率調查 (3) 40代一收新完宝。祭生消養(祭生期:稅 名ト2トウルスがドナリる病原ウクルスの種類同定 1) 試験期間 1987年1月~3月 2) 言对躷方法 数程分别又摄足植物(ソラスメッチョウセンアサ かは、グルケノーサ"在E")k対抗汁流接設門

大課題メロンの栽培技術体系の確立

小課題病虫果の回避方法以ついての検討

鼓験領目の下海が正品種が資本性に国する試験パラグアイ機等的介は契約

8	6年四 担当者:二井内 分子亿
目的	耐病性ネットメロンの地域適応性を検討する。
	1. 供試品種とその特性
計	日 種 病 客抵 掟 性 7 2 3 割病 つ 3 延病 サンライズ +
	ナイル + +
围	$\frac{2-h2}{1a-3k''y} + \frac{1}{-1a-1a-1a-1a-1a-1a-1a-1a-1a-1a-1a-1a-1a-$
	1 試験期间 86年9月~ 87年2月 1. 試験設計 各品程 6年種(15-11×4") 3 反覆 1. 試験方法 4. 播種期 9月13日 日、任立方 4年任文, つ3の失端は延稿心 八、施肥法 (10·00多年)
	IP 科 全量 元 IP
	1. 調查項目 收量 品值

大課題×ロンの栽培技術で体系の確立 小課題病虫害の国際方法ドラいるが検討

財政部島病虫害の祭生時期のらばドアが余方法 バラグアイ電影形では終め

試	東京自病虫害の発生時期ならばでアガモのうと、バラグアイ党等形では異時
<u></u>	担当者:二井内, 这位
目的	病棄ではつる枯病, 害虫ではハモグリバエ, ウリノメイがの被害は激しいので、 それらの発生時期ならびに診除方法と検討する。
言十	1. 供試品種 サンライズ 1. 試験期間 186年9月~187年2月 1. で3 枯病 ド対して 1. で3 枯病 ド対して 1. 少本化之, おをからる 2) 製みらの効果, 特に ellefante 敷わらの厚かとつる枯病 発生
連	ロ、ハモケリバエド対して Amtusch (2005の間), Caltar(2007200で) Orthone (50~70サ), Caltar(2007250°C) (1311年本1001至1)の行及民効果以較、(濃度と紫星を 1302)
	ハメイガド対して Ambusch (20050ml), Diplorex(200~252.cg) DDVP(100~150ml)。到果以較 / 栽協方法 御病性品種試験と分じ
	/ 河查項目 病虫虫の発生肝期でうな水発生条件.

5. 多輸入野等の栽培技術体系の確立
1) タマネギの品種比較試験

19	86 年度 担当者;二升内清之、遊仇健輔
目的	タマネギの極早生品種おはび早生品種について播機り そかえてその適応性を検討する
	一件試品種
	极早生品種: Jexas Early Grano 502, 知多早生1,2,3号
	早生品種:OA黄,OX黄
計	Cebola Monte Alegre Jac. 3335
	Cebola Periforme Precece
	Cebola B. Periforme Cebola B. Super Precoce
画	Cetola B. Precoce Pina-
	Cicaba 1.試験期间 1986年3月~10月
	1 言式 最 設計
	播種期・3月中旬、3月下旬、4月上旬 足植後、播種は、50日後
777D.00	1 栽培方法
i mai	症配量 N:[1:15(10a当)なり, 25:25:25 植栽法 1.3%が3等, 株向100m
	1. 調查項目
	生育調查(草文、華数) 收護調查(球室,球形、路值)
	7人校所生(24年,7代17月7日
<u></u>	

多輸入野柴の栽培技術体系の確立 2) ニンニクの 品種比較試験

	198	2) ニンニクの、治種とと軍又を収録と、二州内清え、遊仇健卑
•	目的	短眼形路種の台湾雑紋中超とは、ブラジル沿種のパラグアイドおける適応性を検討する
	10000000000000000000000000000000000000	供試品種 台湾 裡 (Amambay 産) Chines (ブランル産) Laviana Crigante(") Amarante (") 1試験期間

多輸入野菜の栽培技術体系の確立3)ニンジンの 品種比較試験

1986	习度 担当者:二州内清礼、遊佐健輔
目的	、呂種別播種適期を検討し、ノペラグアイドおけるニンジ
	ンの生産体系と確立了る
	11 14 产士 京新
	1. 件 試品種 ナンテス
言	春群金港
	里田
	Brasilia
	1.試験期间
	- 1986年3月~1987年2月
画	1、言、其实設計
	播裡期 3月,4月,7月,9月,11月、1月
	1. 栽培方法
	施肥量 10 031 及分析, N:P: 10-25:25:25
	的和株,林间 1.3mg和3条, 株间15Cm,
	1. 調查項目 根形、根金、品值
	101/,1NE,10 A

6. 秋野菜。栽培上。问题矣。摘么

担当者:二州内清之、这佐健辅 986年度 主旨秋野菜的、农栽培上的问题矣を探り、農家 目的 指導の指針でする 1.供試秋野菜の種類 のキャベッ、ハナヤサイ、ブロッコリ、ハクサイ·ノザフカ タカナ ワダイコン、カブ ハノネギョンボウレンソウ、シュンギク かしりるし、試験設計 3回播種 播種期. からきれる種類のオノロ播種は3月中下旬、 ロハコナンに含まれる種類のカノ回播種は 4月上旬. 1 栽培方法 施肥量100分,多分下giNP:15日25:25:25 栽植距離小慣行r华扩3 1.調查項目 病虫害, 抽台性 生理障害

大課題?入植地における土壌調査

小 課 題 分布上表の理化学的性質

試験項目の機械走行、土壌石更度との関係 パランアイなど形のは終め

6/87	the contract of the contract o	
0, 0,	年度	担当者:山下 第一
日	前年度 テーラ・ロシヤの土	二块水分と土壌硬度との関係について明る
69	touslichい 引続3連稿	等大型機械の走行い土壌硬度に及びす 土壌改善対策の一助とする。
	試験地 場内牧草地(ヘンタ)	
1	观模	
	20 x 50 m	
	試験区	
	1. 無走行区	
E)	2. 走行区	
	から全面にフラード・デ	スクハロー、サナソイラーをかけい後随時
	ロマリー・マラル・デフタル	いって 耕起し その都及土壌破度と土人
	811/0~10 10~20 20~30	。(m)に測定し、経時的に変化と追訴する
1 1		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	なお本試験は 185年 1	10月的安装施中
	なお本試験は 185年 1	10月的安装施中
	なお本試験は185年1	10月的安施中
	なる本試験は185年1	10月的安施中
	なあ本試験は 185年 1	10月的安施中
	なる本意が顕は 185年 1	10月的安施中
	なる本意が顕は 185年 1	10月的安施中
	なる本意が野は 185年 1	10月的安花中
	なる本意が野は 185年 1	10月的安花中
	なる本意が野は 185年 1	10月的安莱特

					*		1
_ 大_	課/題		13工限調查				
小	課題	野菜加土猪	の実態細査				
			电野荣作士壤		パラグ	アイ吸収し	総合試験均
		7.11 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			担当者	· 4	1克-
86/8	77年度			>			
6	前年	度イグアス移行	主地大豆作土	恨 实践别	(色と アマ	ンハイオダイ	之 对 63
late	大豆分	「及びじゅりりオ	多住地野菜4 菜作上读a实態	过了 医多克克	が加盟とテ	建议定	等款店
65	1547	の参考に資す	ポリトン M. へん	1 12 - 1-11	111011		
	1XX1	3.3.81		· * # B	1、样定.	-} - <u>₩</u>	• + 本 石
	1777	只移住地。	野菜作農家	かり収入を	Kelliki	1. 1.170	211-90
	レ分れ	介する。					
							-
		••				÷	
計	-						
鱼				•	·		
	 -						
	1				•	•	
	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *						
]						
					•		
						-	
1							

大與專加及公包料作物に関す了試験

小課題老朽化した草切の生産力の回復

試験項目イグアス移住地の牧草地にあれる草地を力調査パラクアイ農業総介試験的

tory a	KAR I VIVIDIO I INTERIOR I INTERIOR IN TOTAL INTERIOR IN THE ITEM
198	14 当者:此人 圾田
目	イグアス移住地で放牧利用されている牧草地の中には、長期の利用にすって牧養力が自然に低下したものや、管理に適切さを欠いたために雑力ン木草の侵入を許して荒廃して
的	いるものか多い傾向にある。 これら故草地の生産力と土壌の物理化学性についる調査を行るうことにまり、老朽化した牧草町の向題更を明らかにし、牧草町の利用管理技術の改善のための基礎資料を得る。
	1. 対象牧草処 試験場以面の移住地内農家の牧草地のうち、各農家 毎に牧養力の最高と最低も各1牧&プの選定し、各牧 区にる~5ヶのプロテクトケージ(1×2m)を設置して その中から牧草のサンプリングを行ける。
調查	2. 牧草と雑葬の構成の季節的推移 1986年11月から1987年5月末2-25月かきに4回のXリ取り を実施する。
方表	3. 土機調査 1986年11月から12月にかけてサニプリニクでし、化学性については PH、有効能リン酸、置換容量、置換性偏其及心傷植 物理性については三相分布及び土壌硬土を調査する。
	4. 聴取調車 対象致のについる造成の時期,方法及び利用管理などに ついて調直する。

大課題今後の飼料資源の開発

小課題副産物生産及び流通の実施調査

7986年12 1985年 (35年)の生産、販売実績 ① 生産及心・販売期間 ② 価格 ② 生産及心・販売期間 ② 価格 ② 生産及心・販売期間 ③ 価格 ④ 用産		担当者:田山、西田
日 物のうち最高個料として利用であるまた。 電 販売量などを調査し、冬期の飼料確保を含む年間を通いた倒養的 環境の改善を図すための基礎資料を得る。 1. 対象副産物 当国で大規模に生産であるいる大豆、小麦、棉、落花生 及かビール、アルコール類などが製造加工される際に生する 副産物。 2. 調査事項 ① 1983年~1985年(35年)の生産、販売実績 ② 生産及か販売期間 ③ 個格。		我任物流路。到粉 按油环公司要摩加工保办与出多副座
展 販売量はどを調査し、冬期の飼料確保を含む日間を配いた例を 環境の改善を図すための基礎資料を得る。 1. 対象副産物 当国で大規模に生産であるいる大豆、小麦、棉、落花生 及びビール、アルコール物などが製造加工でれる際に生する 副産物。 2. 調査事項 ① 1983年~1985年(3ヶ年)の生産、販売実績 ② 生産及び販売期間 ③ 個格	1	26。 s t 名 名 AN
1. 対象副産物 当国で大規模に生産2よている大豆、小麦、棉、落花生 及びピール、アルコール物などが製造加工される際に生ずる 副産物。 記 2. 調査事項 ① 1983年~1985年 (35年)の生産、販売実績 ② 生産及び販売期尚 ③ 価格		是. 販売量などを調査し、冬期の飼料確保を含む月間を囲いたでかる
当国で大規模に生産されている大豆、小麦、棉、菇花生及びピール、アルコール物介とが製造加工される際に生不る副産物。 記 2 調査事項 ①1983年~1985年(35年)の生産、販売実績 ②生産及び販売期間 ③個格。	的	環境の改善を図るための基礎項目を行る。
当国で大規模に生産2小でいる大豆、小麦、棉、搭花生及びピール、アルコール類などが製造加工される際に生でる副産物。 記 2 調査事項 ① 1983年~1985年(35年)の生産、販売実績 ② 生産及び販売期間 ③ 個格		
当国で大規模に生産2小でいる大豆、小麦、棉、搭花生及びピール、アルコール類などが製造加工される際に生でる副産物。 記 2 調査事項 ① 1983年~1985年(35年)の生産、販売実績 ② 生産及び販売期間 ③ 個格		
及びピール、アルコール類などが製造加工される際に生する 副産動。 設定 30 1983年 ~ 1985年 (35年)の生産, 販売実績 ② 生産及び販売期間 ③ 個格		1. 对象副座物
副產動。 2. 調查事項 ① 1983年~1985年(35年)の生產,販売完績 方 ② 生產及心販売期间 ③ 個格		当园了大規模比重在2的713人里,如文,如,2011年
設 変 ② 1983年~1985年(35年)の生産,販売実績 一方 ② 生産及い販売期尚 ③ 個格		
験 2 調査事項 ① 1983年~1985年 (35年)の生産,販売実績 方 ② 生産及い販売期間 ③ 個格		副產物。
9 1983年~1985年(35年)の生産,販売実績 方 全産及い販売期間 ③ 個格	BZV	2 28 7 6 7
① 1983年~1985年(35年)の当年,級の大川県 ② 生産及心販売期間 ③ 個格	験	
图 個 格		
弦	オ	② 生產及心販売期间
●用產	75	③ 他书
	la la	●用 產

アルゼンティン園芸総合試験場 (旧称 アルゼンティン園芸センター)

/ カーネーションの栽培技術改善 ハカーネーションの優良毋本 報抜剤験

アルセンティン園芸センター 担当:佐水嘉味田、晩田有賞、鈴木

日的	優良農家の圃場を検索し、一次選抜した良品多収株を園芸セタ の同一圃場において二次選抜を行ない無病苗の原々種生産に
	供する。
	/供試品種及が株数
	SCANIA (Z系統、64) WILLIAM SIM (Z系統、64株)、WHITE SIM (Z系統、64株)、CALIFORNIA WHITE (Z系統、64株)、SUPER
	WHITE(3系統、72株)、ATLANTIS(Z系統、64株)、LE REVE(Z系統、
	4株)、NORA(Z系統、4株)、EMBER ROSE(Z系統、58株)、ARTHUR SIN
計	(1系統、40株)、SACHA(Z系統、60株)、PALLA(Z系統、60株)、VANEZA (Z系統、64株)
	z.試験区
	(1)在来型のポリエチレン被覆両屋根型簡易温室内に設定。
<u>.</u>	② 随床话床上30 cmの7°2子(幅77 cm,長さ18cm. 凝±20cmの木件、对收 3. 栽 植 密度 12 cm × 24 cm. 4条 植
画	4.耕種概要
	(1) 農家での一次選抜 1986年9月 (2) 京 納 1986年12月11日
	図定値 1986年12月11日 3) 摘い方法 - 回半摘心法とする。オ1回目はら節残して摘いし、本
	仕立とする。 2回目の摘心は勢力の強い 乙本だけとする。
	の用土はカンナクズス5%施用 (6) その他は園芸センター栽培基準による。
	5、調查項目及心期自
	の項目 旅花本数、品質(上、中、下、かり割健度)、花径、茎長 花色
	花种数、铅数、花鱼、総、鱼量
	(2) 期间 定植後 350日
1	

2.イチゴ 裁 培 技 顔 改善ルイチゴの 優良 母本 異 抜 南 晩

アルセンティン園芸センター 担当:佐水東・藤田角質・金水

目的 國場において二次選抜を行ない無病苗の原々種生産に供する。 / 供剤品種及び株数 Nº6(4系統、20株)、HECKER(5系統、25株) Z 試験区 - 区制 3 栽植密度 睡面 Zm 株面 75 cm 4 耕種概要 い農家での一次選抜	1700	1-2-
M26(4系統、20株)、HECKER(5系統、25株) 2. 試験区 - 区制 3. 規値密度 睡面 2m 株面 15cm 4 耕種概要 (1) 農家での一次選抜。 1/986年12月上旬に下記基準にて選抜後22cmポットに移植し處 芸センターのビニールハウス内里寒冷紗の下にて間化。 1. 品種の特徴をレッかり構立ているもの。 1. 基葉が大きく、旺盛に生育しているもの。 1. 花期が早く、初期収量が多いもの。 二 株当りの花径数が多く、大果であること。 1. 高出害をこうもっていないもの。 (2) 定 植 /986年12月24日 (3) その他は園芸センター栽培基準による。 5. 調査項目	目的	優良農家の圃場を検索レー次程技した優良株を園芸センターの同一 圃場において二次選技を行ない無病苗の原々種生産に供する。
		Nº6 (4系統、20株)、HECKER(5系統、25株) z 試験区 - 区制 3 規値密度 睡向 Zm 株向 75 cm 4 耕種概要 (1) 農家での一次選抜 /986年12月上旬に下記基準にて羅抜後22 cm 市ットに移植し園芸生29-のビニールハウス内星寒冷砂の下にて間化。 イ、品種の特徴をレッかり構むているもの。 「基葉が大きく、旺・盛に生育しているもの。 」、花期が早く初期収量が多いもの。 二 株当りの花径数が多いもの。 ホ 花径当りの花数が多く、大果であること。 1 適出害をこうもっていないもの。 (2) 定 植 /986年12月24日 (3) その他は園芸セ29-栽培基準による。 5 調査項目

3. 果樹の栽培技術体系の確立 211種類に関する品種面心試験

アルセンティン園芸センター担当:有質 脇田 板村

	アルセンティン国において今後有望と考えられる11種類の日本からの
目的	当入果樹の品種につき、その環境適応性を検討し、アルセンガン
	国における品質優良で生産性の高い品種を明らかにする、その第一段
	陷x12、至x12案卷生长15関引調查4行、基础資料を得る。
	1. 1986年 4 人果樹
	(1)供試品種
	1986年8月(落葉果樹類)、9月(常緑果樹類)バラデーロ果樹試
	験園場に定植した果樹苗
	のブドウ 巨峰 ヒナーネ アーリースカーベン
2	②キウイ ヘイワード ブルーノ モンディ アボット トムリ マツア
言十	③時ナシ 新水幸水豊水二世紀今村秋
	④ 中义 玉英 鶯宿 白加賀 南高
}	图主王 砂钾生松新华生生和的白凰坎-工工双洲台坎-工工,白鳳
	◎ 力午 面集前。四生汉郎 伊豆 模专九 汉郎富有
	タレア 茂木田中瑞穂長崎早生
	③ミカン 京本早生力武早生徳春早生興津早生久能温州 杉山温州 瀬戸温州 宮川早生 (各品種がよずつ供試)
画	(2)調查時期及以項目
:	් කාට් ක්රම්මේ ව
	の時期 1986年9月から1987年8月まで1週間から2週間間隔で 割直する
	②項目
	イ果樹の生育:萌芽期展薬期落薬期着花の有無 新梢長総豹構
	莱内成分
	口、土壤的化学性及心物理性:PH.EC.土壤中成分,土壤硬度三相分布
	土壤透水值
	2. 1986年導入果樹
	(1) 供包品種
	1986年11月26日日本からの葬入果樹苗
	のリンガーコルルダイジ ままな まつ スターキングデリシャス、M9台1フジ王林
	もつ、M26台; フジ王林もつ; マルバ州Fウ M9 M26
f	

- ②モモ さかいめ
- ③ ナクランボ 佐藤錦 高砂 南陽ナポルオン
- @ 21 丹沢石槌筑波岸根伊吹
- (2)処理
 1986年11月26日から2ヶ月半かつでで没蔵処理後、寒冷紗で2重被覆したハウス内に植はけ育成する。たていりス内に移植する前に没蔵庫内温度を序立に上げて、巡化しゃすくする。また秋季(1987年5月頃)に果樹甘る霧地に搬出し、低温による休眠打破を行う。

(3)調查時期及び項目

- ① 日寺期 1987年2月から1987年8月まで
- ②項目 萌芽期展業期 落葉期 新梢長統新梢長 幹径

画

計

果樹の栽培技術体系の確立 2)接木及び挿木繁殖に関む予備試験

1986 年度

アルヤンティン園芸センター担当:有質 脇田板村

目的	アルセンガン国の土壌及びその他の環境条件下にあいて、日本の優良教培品種の生育及び果実生産果実品質上有利と考えられる苗の養成、方法について明らかにするための予備試験を行う。
言十	1. 供試品種 ① キウイ 穂末;ヘイワード ブルーノ、台末; アボット ヘイワード モンティ ブルーノ の実生菌 挿木苗; ヘイワード アボット ブルーノ トムリ ② カキ 穂末; 富有 西条、台末; 正月 共幸后 Lustroso Lotus Virginiaの実生苗 ③ フリ 穂末; 筑波 伊吹岸根 平沢、台末; ジンプ) ④ ウンゴウコン穂末; 興津早生 台末; Volkamiano Rugoso Trifolia Troyer
画	2. 処理時期及び方法 (1) 接不 ビニーレノウスヌログラス参内の苗床で居接でを行う ① キウイ 1886年9月~10月 切接及びくら接 ② カキ クリ 1986年9月~10月 切接 ③ ウンシュウミカン 1986年9月~10月 切接 1882年4月 芽接 (2) 挿木 ビニーレノウス内の苗床(石ケー)1=1986年10月及び1987年7月8月9月1-挿木を行う。
	3. 調查項目
	活着率、業本よび基の大王生形技、新档长、韩径、根群分布

果樹の栽培技術体系の確立

3).グドウの生育実態調査

アルゼンティン園芸センター 担当: 有質 脇田 板村

1100	
目的	アルゼンデン国ブリスアレス州及びメンドサ州において栽培されている2.3のブドウ品種の樹体生長及び果実品質を調査し、今後のブドウ品種適応試験の基礎資料を得る。
	1.調査地 プリス・アルス州 サンタモニカ移住地 メンドサ州 アンデス 移住地 2 供試品種 巨峰(サンタモニカ移住地)へ「ロ・ヒメネス モスカテル・ ロサード セレッサ(以上3品種 アンデス移住地)
計	3. 調查時期及び項目
	(1) 村体生长:1987年2月;村高村冠面積幹周1年4枚長2年4枚長菜面積,萌芽期開花期(聞2124調查)
画	(2)果实品質:1987年2月;果房數果房重果粒数果在重果股色 糖度酸度
	(3) 土壤の化学性及以物理性;1987年2月;pH EC 土壤中成分 土壤硬度 三相分布土壤透水值

果樹の栽培技術体系の確立 4)キウイの生育実態調査

PILE"ンディン園芸センター 担当: 有僧 脇田 秘村

目的	アルゼンガン国において、先駆的に栽培されているキウイについて、その樹体生長及び果実品質を調査し、今後のキウイ品種適応試験の基礎資料を得る。
	1. 調査地 プロス・アイ・ストリ サンタモニカ エスコバール 2. 供試品種 ヘイワード
	3. 調查時期及心項目
計画画	(1) 樹体生長:1987年4月;樹南 樹屋面積 幹周 1年生枝長 2年生枝長葉面積(生育期に調査),萌芽期 開花期 (関2込み調査)葉内成分 (2) 果実品質:1987年5月;果実重 果皮色(カラーカート値)果肉色 果径(横径 縦径) 硬度 糖度 酸度 (3) 土壌の化学性及び物理性;1987年4月; pH EC 土壌中成分 土壌硬度 三相分布 土壌透水値

果樹の栽培技術体系の確立 5). リンゴの生育実態調査

アルセンティン園芸センター担当: 有質 脇田 板村

1786				
目的	アルセンティン国ネウケン州の日条農家移住地で栽培されているリンエ 2品種につき、その村体生長及び果実品質を調査し、今後のリンエ品種適応試験の基礎資料を得る。			
·	1. 調査地 ネラケン州 エル・テャニアール移住地			
	る供試品種レッドデリシャス、グラニュースミス			
	3. 調査時期及び項目			
言十	(1) 樹体生長:1987年2月;樹高, 樹型面積 幹閣 1年生校長 2年生校長藥面積, 萌芽期 開花期(聞弘计調查)			
画	(2)果实品質:1987年2月;果美里果径(横径微径)果及色(功一下)一个1值)硬度糖度酸度			
	(3)土壤の化学性及心物理性;1989年2月;PHEC土壤中成分, 土壤硬度三相分布土壤透水值			

果樹の栽培技術体系の確立 6)、ウメの生育実態調査

Pルセンティン園芸センター 担当:有質 脇田 板村

-700	702			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
目的	アルゼンティン! その相体生長 の基礎資料を	及び果実品質を言	- 栽培されているウメ品 周査し、今後のウメ品種	種になる。
			1 エスコバール・バラデー	口衫往地
글+	3. 調查時期	***		
計		2年生校長 花期 (聞zu)	樹高樹短面積 幹原 乗面積(生育期に調査 み調査)業内成分 果径(横径継経)果施 後度 硬度),萌芽期 閉
	(3) 土壌の化	•	生:1987年4月;pH EC 1分布 土壌透水値	土壤中成分
				·

アルセンティン園芸センター 担当: 有質 脇田 核打

	子伎.
目的	アルセンティン国において栽培されている代表的まま品種にフォ、その樹体生長及び果実品質を調査し、今後のもも品種通応試験の基礎資料を得る。
	1. 調査地:ブェノス・アレス州サン・ペドロホャびミオネス州かルアペー 移住地 2. 供試品種:サン・ペドロ16-33
言十	3. 調查時期及心項目 (1) 樹体生長: 1987年5月; 樹高 樹冠面稜 幹周 1年核長 2年生枝長 葉面稜 (生育期):調查) 萌芽期 開花期
画	(開政計調查) (2)果実品質:1986年10月;果実重 應度 酸度 (3)土壤。化学性及以物理性:pH EC 土壤中成分,土壤、便度 1987年5月; 三相分布土壤透水值

果樹の栽培技術体系の確立 8)カキの生育実態調査

アルセンティン園芸センター 担当: 有質 脇田 板村

目的	アルセンティン国プエノス・アイレス州において、すでにカキ栽培を先駆的に行っている園地のカキ3品種につま、その樹体生長及び果実品質を調査し、今後のカキ品種適応試験の基礎資料を得る。
	1.調査地プロス・アルス・州サンペトロティタン農場
	2. 供試品種 平核無 松本學富有一本系次部各口成本
2	3. 調查時期及び項目
計画	(1) 村体生長:1987年5月;村高村冠面積幹周1年生枝長2年生枝長葉面積(生行期):調查)萌芽期閉花期(開2 公计調查) (2) 果実生長及心品質:1987年2月~5月;最大横径果箕車碩度 穩度酸度果皮色(カラーカート値)可溶性タンニン含量 果実の脱渋性 (3) 土壌の化学性及い物理性:1987年5月;pH EC 土壌中成分, 土壌硬度 三相分布土壌透水値

果村の栽培技術体系の確立 9). ピワの生育実態調査

アルゼンティン園芸センター 担当: 有質 脇田板打

1786	7(2
目的	アルセンティン国において、すでに栽培されているピワ3品種につき、その樹体生長を調査し、今後のピワ品種適応試験の基礎資料を得か。
	1. 調査地グンスアイス州プロレンシオ・ノベレラ
	2. 供試品種 茂木 津雲 瑞穂
	3. 調査時期及び項目
言十	(1) 樹体生長:1987年4月;樹高樹冠面積幹周1年生枝長 2年生枝長葉面積(生育期):調查)萌芽期開花期 (関2122)+調查)
	(2) 土壤的化学性及心物理性:1987年4月; PH EC 土壤中成分
画	土境硬度三相分布土壤透水值

果樹の栽培技術体系の確立 10).早生ウンシュウミカンの生育実態調査

1986年度

アルセンティン園芸センター担当:有質 脇田 板村

目的	アルセンティン国のかルアペー移住地ですでに栽培されている早生ウンシュウミカンにフェ・その樹体生長及び果実品質を調査し、今後のウンシュウミカン品種通応試験の基礎資料を得か。
	1. 調査地 ミオネス州かルアベー移住地 2. 供試品種 興津早生 12~14年生(カラタテ台末)
計	3. 調査時期及び項目
画	(1) 樹体生長:1987年4月;樹高樹短面積 幹周 1年生枝長 2年 生枝長葉面積,萌芽期 開花期(聞以)4個香)
	(2)果実品質:1987年4月;果定里果皮色(カラー和一个值)果径(横径,继径) 糖度 酸度
	(3) 土壌の化学性及び物理性:1987年4月;pH EC 土壤中成分, 土壤硬度 5相分布 土壤透水值
1	

果樹の栽培技術体系の確立11).モモの体眠打破に関する試験

アルセンティン園芸センター担当:有質 脳田 板村

目的	アルセンガン国がルアペー移住地において栽培されているモモ品種サンベドロ16-33は、更熱帯に属する当移住地の冬季の低温不足のため、休眠打破が完全に行われず問題とするかる。そこでサンペドロ16-33の休眠の生理的実態を把握するといもに、休眠打破処理の効果を検討する。
	1. 調査地 ミオネス州 かルアペー移住地
	2.供試品種 サンペドロ16-33
言十	3.処理時期及び方法 1987年1~8月に機械油乳剤1%又は5%散布処理を行う。 1処理につき3本供試する。
	4. 調査時期及び項目 対照区及び機械功乳剤散布区に関して、1987年9月から10月にかけ て、次の項目に入い調査も行う。調査は1村当り20本の1年4枝にかっ 行う。
画	調查項目:萌芽日,萌芽割合:展集日,新档長 開花日 開花割合 結美期、果実肥工
لـــــا	

果様すの栽培技術体系の確立

(2)、早生ウンショウシカン學津早生の枝枝防除試験

アルゼンティン園芸センター 担当: 有質 脇田 板村

1700	adad Maria Cara Cara Cara Cara Cara Cara Cara
	アルセンティン国ミッオネス州かルアペー移住地において:1985年から急増した
目的	早生ウンシュウミカン興津早生の枝枯症に対し、その原因と推測される土壌
ļ	病る菌(アウレガンデがか)に有効とされている種々の処理を行い、今後の農
	家への防除指針の基礎資料を得る。
	1.供試樹 被客程度によって、10%以内,10~50%,50%以
	上の3グループに分ける。
	2.处理区
	(1)無处理区
	(2) 心急处理区 溝切 被害枝剪除 剪除跖白塗(トップッジン
計	M又はベンレートかの倍/水性ペイント)摘果(花) 敷草
~ '	(3)酸素処理区 バングーにより土壌中に強制的に酸素を供給
	する。樹1本あたり8個の穴をありる。
· ·	(4)酸素処理ナベルート処理区バンダーで土壌に穴をあげつの
	ちベンレート500倍液1000と灌注する。
-	(5)酸素処理ナバセステン処理区バンターでは嬢に穴をあけた
迪	のちバビスがン500倍液100儿を灌注する。
	(6)酸素処理+苦土石灰処理区 バンダーで土壌に穴をありため
	ち苦土石灰水溶液を注入する。苦土石灰施用量は当該闡場の
	緩衝曲線からりけ矯正量を算出する。
	(7)酸素処理ナベンレート処理ナ苦な灰処理区、バンダーでは像に
	スをあけたのちベンレートかの倍液100見を灌注し、その後別の穴
	に苦土石灰水溶液を注入する。
	注。(3)~(7)の处理区に関しては、予め(2)の応急处理を行う。
	3. 供試本数 各区 5本
	4 211程時期 2月かじし(4)(5)(7)に関いす10~50%被害核
	に対してのみ、2月単独処理及び2月、4月の乙回处理を行う。
1	

V 長期総合試験研究計画

にレグレム 転転をがが

	袱																		
	鱁			na,,	~				~~~			第1期形了	第15部子		第1期完了			第1期沿了	
	1986/87 年度試験項目	· CRIA 的成下 5 系統選抜	養養	・導入大豆品種の生産力検	是少篇过数	・早・中生系品種の生産力	秦師短毫	・IAN選抜系統の地域適	· 尼在农品试整	・主要品種の熱性調査								・ (解素應用量と大豆の生	育物をの関係)
	題	'85∼		83~		~08.				.85~		81~84	83~85		83~82			783~85	
名	中聚葡一个数葡	イグアス地域におけ (1) 大豆新品種育成試験	る適品種の退促	(2) 適品種の設定試験		(3) 大京品種の生産力検定試験				品種の特性(分類) (1) 主要品種の生態型調先	公別する調査	滞産適力の次流 (1) 滞産期減暑	滅性級植密度の決定 (1) 数権密度と大夏の生行収量と	の投稿	(2) 政権係のと人気の代介政権と	の関係	(3) 施肥条件之政制密成との陽係	今里的施肥法の確立 (1) 条案の合理的施肥法	
搬	大線塩	大豆栽培技術体系の確立 1.	₹.		.——	_				ci	2	6	4.					<u>ភ</u>	
	章 的 四 露 一 大	畑作の生産性向よと 大豆栽	生産の安定	-				·											

6		価作と土壌肥料部門	との共同研究				第1期完了 (1985)						留作と土殻配が飽配	との共同研究		:						価作と病害虫部門と	の共同研究
1008/87 小品:計能加	1900/00/11 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 1	・極肥リン酸の形態と大豆	の生育収量との関係	・小坂橋町リン敷の坂源と	後作大豆の生育収量との	別僚	・(リン酸糖用品と大豆の	生育収量との関係)	・置換性カリと大豆収量と	の関係			・安稈働込み畳と大豆の生	育収派との関係			一、除草剤散布効果試験					・主要病害の発生消長調査	
=		′83~							.85~			·	.84~		~18.		`85~			3		~98€~	
38	(A) (A) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B) (B	(2) リン酸の合理的施肥法							(3) 加黑の合理的施肥法		(4) 砂質土壌地帯における合理的	格肥狭の権力	(5) 冶黎哲の鯉以子牟畔		(6) 綠肥迎用効果	(1) 葬場御鮮笊と佐衛暦の海政	(2) 除草剤による維草防除効果	(3) 核枝祭草と除草剤の組み合せ	に関する効果。	(1) 主要語中の発生消長	(2)	(3) 主数病協の発生治权	
% %	頭 誰 当	9)							:							6. 雑草防除体系の確立				7. 核害虫防除法の確立			
	大業	The state of the s																					
	章 2 四 家		•																				

W									<u> </u>				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						***************************************		25.7		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								·····	·		泰.	Marko F. Agazon	SM.		超		- 2				第1期经了		.
日 1086/87 年 第 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	The Market of the Control								***************************************	•	・導入小表品額の生産力検	仍小館以聚	· 早生系品種生産力檢定試	氢	· 中生系品種生遊力検定試	The state of the s	・IAN選抜米常品権の場	以因仍怕核厄賀縣					
- E			. :								.83∼		~08,								80~83		
選 題	小線	(4) 薬剤による主要病害の防除性	校法 (1) 収穫後の調整方法と種子発芽	7	(2) 汽子貯蔵方法と積予発歩力	(1) 大豆を中心とした合理的輪作	各然	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			シケ (1) 適品種選抜予備試験		(2) 品種色雅力物循質製						質(人) 主要品種の生態型調査		(1) 希利切其繁	火定 (1) 救権密度, 装権様式と小麦の	生育収益との関係
%	別 数 中		8. 循子の認熟, 貯蔵法	:		9. 藩佑谷米の編式		10. 廢城化作業体系の臨	37.		1. イグアメ地域におけ	る適品権の適泊							2 品種の特性と分類に	関ナる調査	3. 掃紙適助の決定	4. 適性栽植密度の次定	
##	大 課 題										小表栽培技術体系の確立			_								·	
ā	が H 光 H に																						

760	3	及 / 如作, 土或肥料部門	米回母名		8	a	る 第1期完了 (1985)	<u> </u>		と「畑作、土壌肥料部門」	の一状面摩約		-V					状面穿船		交		
1008/07/2014 金额 14 日	1200/0/ 中河北美之口	・施肥リン酸の形態と小麦	の生育収益との関係	・大豆焔肥リン酸の形態と	後作小表の生育収量との	踢係	・(布種リン酸肥益ドル	有効態リン酸の増加と小	数収益との関係)	・前作大豆の加里施用鼠と	後作小弦の生育収量との	関係	・魔狭性カリと小髪収録と	の関係			・大豆稈の鋤込み畳と小麦	の年額収録		・エン宏用除草剤の散布効	来搜察	
ura H		.85~								,85~							′84~	-	~18.	.86∼		
窟	小	(1) リン酸の合理的権間法の確立								(2) 加里の合理的施肥法の確立					(3) 砂紅土酸物帯パポたら金脂	的施肥性の確立	(4) 有機物の鋤込み効果		(5) 黎肥邁用夠聚	(1) 除草剤による維草防除効果		
発	湖 治 北	5. 合理的類問法の確立													٠.					6. 雑草防除体系の確立		
100	大學學學					•																
	n R																				:	

1	の砂条法	î.	1 100) OI T (2 200K) I	r r
病虫雲防除法の確立 (1) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7				
(2) (4) (4) (5) (5) (5) (5) (5) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	教剤による主張害虫の防除供	~18.		
(8) 権子の収穫調製と保 (1) :方法の確立 た				
(4) 権子の収穫調製と保 (1) :方法の確立 た	用敷態地の常用症収			
権子の収穫調製と保 (1) :方法の確立	薬剤による主要病害の防除法			
+7	収穫後の調製力法と種子発芽			
	1			
(3)	種子貯蔵方法と種子発送力		:	
9. 灌护存帐 0 羅拉				
10. 黎蒙力布敦存帐 0 搖		`` <u> </u>		
15				7
新規価作物の導入と「新規組作物の適応性調査」				対破存物:
開発		<u></u>		ピャワリ, メイート
				ローン、トウホロリ
				ン, 紫穂, 亜麻, 紅
				ち、レェション、館
野菜の抜揺技術の改 野菜袋站の冥錦調査 1. 現在栽培の多へ野菜 (1)	トマトの栽培気源調査	85~86	・トマトの栽培実施調査	
海と品質向上 の実際調査 (2)	メロンの被抗党部部代	85~86	・メロンの液特気処調剤	
2. 多篇人识野菜の栽培 (1)	タレネギの波站宍鴻調益	18-98	・グレネギの被拍式展調権	
火强湖东 (2)	ニンニクの板塔曳隙調査	86~87	・エンニクの及培収徳調査	

	-								1														1		
	Ŕ.							野戏,旅游虫部門共	n.J										ŧ.						
***/	Ē.							野菜,	四争名																
田 514 公里の中では1 日/ 20/ 2001	1300/01 年/文章表示公司	・ジャガイモの栽培民態調査	・エンシンの栽培実徳調査	・パーレンの数括次原調室	・キャヘンの数格供能調査	・トマト病语虫の発生と防除	灾Ü調查	・斑点細菌病、穀瘍糖の発	生生態と防除法	・ウイルス病の発生様相と	苏 黎	・トマトガ、ヘモグリバエ	の発生様相及び防除法	・前病性加工用品織の地域	適応性比較			・製布族の発生様相と防除	斑	・ハモグリバエ、ウリノメ	イガの発生時期と防察法				
till HA	<u> </u>	85~86	85~86	85~86	85~86	.85~								.85~90		84~18.		185~87	:			· 			
搅	数	・ガイモの栽培気徳調査	インシンの栽培気味調査	パーセンの数据状態調査	キャムンの数格式認調者	液が虫の総金母類なっなる語	除方法に関する検討							耐療性品種の適応性に関する		仕立方と栽植密度との関係		旅船虫の発出時期ならびに防	除方法に関する検討						
	\ \ -	(3) %	(4)	(5) パー	+ + (9)	(1) 紫砂	聚力法							(2) 克刹	好%	(1) 仕立	٠	(1) 病铝	除方法						
器	中報配		, <u>``</u>	<u> </u>		板部虫の回避力法だ。	りてんの複字	-								数植密度试验 (病害虫の回避方法に (ひったの数型				-		
1.£_		 				 -i	<u> </u>			•		· · ·		 .		23		~ i	<u> 7</u> .						
- B	大 菜 店					トトトの液結技術体系の	龍立							·	·			メロソの数站技能存成の	確立						
E	ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	 							. <u> </u>			~ 													
E E	K,													-		•									

, .					******	·						- 	:				-						
	無																计级区征段						
	1986/87 年度試験項目		・売意和ペットメロンの名	域涵际在比較		・タレネギの品種出数質数	・ ーン ーク の 品輪 光 表 関 製	・ ルソシン の 昭 編	・サナイツの昭維力数数数			-		<u> </u>			・中暦・日曜の第一別線		・分布土城の館様在カリ金	e e e	・機械売行と土態硬度との		
	聖		85~90			86~92	86~92	86~92	86~92	87~92	87~92		36~06,	96~06.	~28		83~87		83~87	a <u>(</u>			
228		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(2) 耐瘀性品類の適応性に関する	争名		(1) タマネギの品組出較試験	(2) ニンニクの品類比較試験	(3) ニンシンの品館 比較関聚	(4) キャムシの昭御兄凌知琴	(5) ジャガム市の昭極円敷箕壕	(6) シャガイモの種でも 岩脂紙 下関	ナる数型	(1) タマネギ品種の系統選抜	(2) ニンニク品類の系統選抜	(1) 病害虫の発生収糠と防除低に	划于各核討	(1) イグレメス落地の土穏や停止	凝め	布土城の理化学的構筑				
	K	一 紫 阅	-			1. パラグァイ何を品館	の収集とその比較						2. タマネギ及びニンニ	ク品種の系統選抜	3. 病害虫の回避方依に	ひでんの複型	1 イグアメス落塔の十	22					
117)		大 談 阅				多権入室野球の栽培技能	名米の権力									:	入権権でおける土壌圏本						
	伊 乳 四 彪																ジルがディイグルン	南部における地力維	建 拉鞋				

F		,																		<u>.</u>	
	15															(1985)	(1983)				1:
1	£												٠								-
	<u></u>															第1期完了	第1期完了			-	
				 -						·		i)			1/m)	無	無				
li k]]	野衆連作士城の突旋調茶					・夏型牧草の刈取り収量試		・イネ科とマメ科牧草の涅		鍒	コロニアル草地の利用時	掛と数年の超称との関係	・イグアス入産地の牧草地	における草地生産力調査					• .	
0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	で を を を を を を を を を を を を を	の決別					表り1		草板		・板牧七式の円敷靫藜	を を	新る	もある	拓雅					-	
, fo [6]	\$	年土城		-			草のと		イング	深	式の江	マンド	4 2 2	メンタ	2年2月						
10, 10,	0/00/	张 出作			•		型め	4007	存	插嵌柏粗琴	多石	1]	10公司	11	女						
, ,	- -	· ·		····				蒸		## P	**************************************		#	•	*	·				· 	 -
15		85~86	}	,)		}		}		į	7		₹			<i>1</i> ∼ <i>1</i>				1
2		.85	~28.	.87~	.87~		75~		,85~		~08.	`85∼	· 	786∼		,83∼	777				
									落数					老朽化した草地の生産力の回						-	:
	哥	誓	نبع	智慧	黎		经经		中の油			£ 3	:	王雅力	÷	被加	多				
		野菜角土張の気御覧巻	水田士威の実施調査	改良年地土城の実態調査	土壌役食の実施と予察		牧庫の制板適同相対緊		イネ科とマメ科牧草の浪播教		麽	草地利用時期の移動		20元	•	ー年生飼料作物の栽培	サムフーシ の 監 数 板 総	彩			:
	三菜	意の	夏の洪	5十城	Š K		山域涵		*		れの光	日時期		インは	•	詞料作	- : 0	超数粒			
頭	<	が备二	計開	京 古地	無金金		草の油		水類と		板牧お帝の兄骸	岩利		151K 1		年生的	7 7	乾草の調製技術			
	,									拉				(5) 粉	緻	 E	(2)	(3) 乾			
<u>₹</u>		£	<u> </u>	<u> </u>			双(2)	· 	<u>8</u>	·	<u>ල</u>	<u>4</u>								_ 	
	픻	ス入権地にお	温光		イグアメス権地方がず、土質のを指しいる	JE 4.J.	草地生産及び利用技									冬期利用飼料の生産					
	髸	メング	別土城調希		ストル	8 8 8	強及び									用館	4				
27		177	かる作目		7 1		语用	第の向上								独利	技術の向上				
	-	ς; γ.	な 必		اب ب	<u>5</u>	i i	総の								6 9	技術	٠			
嵌								<u>_</u>	·								 .				
	Ħ						物に関											٠			
	黙	!			Ħ		料作														
	K				以余郎		ダワ館	⊴ ⊊′													
					土城侵籴防山		塩地及び飼料作物に関す	る対影													
l	4	 			<u></u>										-\- <u></u> -			·· - -			-
	Š II) 0	农庭									•				
	4						涵薙(凶牛)の生産	性の向上と安定	•										•		
E	ī						函産 (和の存									.*				
	!	Ĺ																			

pro-				·					
并	. !	:'				第1期完了 (1986)			
四四八分割并原注 二/ 20/3001	1200/00/1	・冬胡に痛助飼料を絡与し	た場合の海伊牛と秋伊牛	の発育、植体に関する比	数扣裂	・始年日の破祭状況調査		・間確物生産及び流通の実	限調査
1 1 1		85~91				'85∼		~98,	
26 製	日 黎 函 今 聯 國	田治日令短鑑の技能 (1) 冬辺の維助館幹路中の栓尿				放牧地における衛生 (1) 砕油虫の汐磨とその醫廃	當班	最産加工副産物の賃 (1) 副産物生産及び流通の実施調	料化の検討
户	大器	飼強及び衛生に関する試 1.				63	60	未利用飼料資源の開発 1.	
1.									

ボングィア治福第句賀聚瑟

	¥.												_ ~ _					:				
	1985/86 年現實際是四	・図田中の超谷寅繋		・乳用牛の増乳製薬			· 再生比較損惡		・昭陶兄骸戦驟								·牛結核病裂腦調查	・ 中 レ ラ も ル を 放 顔 認 検	·牛肝蛭病殼潤調查	來到壓除効果比較試驗		:
		88~81.		84~89			.82~86		.84~88		88~98,	88~98,			88~98	.87~94	85~94		. · · · ·	85~87		
팾	受苦	(1) ぬ用牛の草体衰衰		(1) 引用年の哲院接続	-		(1) 老朽牧野再生试验		(1) 品倫另數段聚	:	(1) 花草飼料作成試驗	(2) サイフーン 作成 関張	(3) 乾草及びサイレーシ給与効果	拉瑟	(1) ダーの防除に関する試験	(2) 飼育密度の増加試験	(1) 結核,プルセラ,肝蛭病防除	双黎		(2) 牛のダー駆除試験		
第二	是 業 選	1. 均用年肥育に関する	对题	2. 乳华品種改良亿周宁	名,试验		1. 牧野故良方法吃閱予	8 親麗	2. 牧草適品種選定化限	十九代票	3. 牧草調整法に関する	其			4. 牧場構造の改整と効	路的道用に関する質繁	5. 疾病防除化烟寸名試	\$\$				
44	大	1 幸牛技術の確か。試験				<i>-</i>	11 飼液管理に関する観	盏														
	章 二	乳・丸牛飼養の改善	と発売の分価																			

O P	例	2.5			C) 82 / 28 / 20 / 20 0 -		**************************************
A 元 E 公	大 課 題	由源面	小 縣 題	X47 (4.1)	日300/00年 20/00年	9HH	Ŷ.
畑作物の栽培技術の	1 畑作物の栽培改築に	1. 大河の被站存床の鑑	(1) 品租比較試験		・大豆品種比較試験		
改略と経営の安定化	返する領標	14.	(2) 結種期實驗		・大河の榃漁財政務	夏作・冬作	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
			(3) 栽植密度に関ナる試験		・大河の兼綇密既賀黎		
		2. 小表の栽培体系の確	(1) 品種兄數對聚		· 小麦品種比較試驗		
		77.	(2) 結倒出質愛		・小波の猪種胡試繁		
			(3) 被煩密既に闊する試験		・小坂の軸巾で図する質繁		
		3. トウモロコンの数据	(1) トケモロコン製塩の実態調査				
*		改卷	(2) 酸点品稻鸡拔武聚			-	
			(3) 被格法收益就剩				
				~			
	11 地力の維持、超進技	1. 緑肥作物の施用に図	(1) 繰肥作物の導入栽培				
	能の揺び	ナる質素	(2) 絵肥のすき込み効果試験				
		2、 書名名帐の篇7.	大豆、小及、玉饲素、ソルゴ、緑	-			····
			肥輪作体系の確立				
			-				_

備考:本研究計画は、昭和61年10月及び12月より各々新規に釈迦された畑作、畜産分野の長期専門家との陶巌を経て大幅に改訂予定。

レラカソアムソ路報籍も撰聚誌

- [
	4	1,5																		.*	. *
	- T	E .							 即 公然了		即中然了	的少然了				<u> </u>		·			
	日 27 28 年 37 78/ 9801	100/00 11/2/2/2/2/2011 10/00 1																			後良母本選抜試験
(4)	E	ļ	黎		84~86		紫紅		85~86	88~18.	06~68,	85~88	条			紫菀				然	然統
	57	小線場	(1) ウイルスフリー軟と在来款の	元核宣纂及び既示	(2) 威災炭塩株のウイルス形然調	₩.	(3) 国芸総武培養株のウイルス汚	來調査	(1) 粗大有機物施用試験	(2) 抽願 門 格田 対象	(3) 微点要素施用試験	(4) 拖肥收繳實際	(1) 定植時間と開花期に関する試	釜		(1) 組織培養の簡易培助検索	(2) 英国培教の俗部に関する対象	(1) 原々種の仕立方に関する試験		(1) 吸収米税の最終回場選抜	(2) 優良系統の巡抜試験
	光	(A) (A)	レイガス所がも実際(<u></u>				施肥及び土城管理に関す	の対象			定植時期に関する試験		-	価機相級の図する対象 (中株の仕立方に関する (試験	品種系統に関する策略	
	掛	大學	級具當防除代因する試驗						栽培管理に関する試験							級兵田育成に関する 試	鍒			品種系統に関する試験	
	野 田 彩 巷	1	カーネーションの被	柏技等表態												:					

			:	-															
•	州	ľ							· ·	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , 		-							
		E					_		<u>-</u>	 	-								
	1086/87 年 研 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	n X			t.														
	±, 79/3901	6 6061			٠.														
	86 8A		条	:	然	禁	*	85~90		 築。第	*		"	ï	黎	28~98.	**		
	證	路路	(3) 実生系統の特性調査及び選抜	試整	(4) 新品種の導入やよび展示	(1) 花の貯蔵に関する質繁	(2) 開花調節に関ナる試験	キンのサイルスアリー株と往来株	の比較試験及び展示	(1) 陽花取界夜間に関ナる戦墜	(2) 纸照K图字名误聚	(3) シェードに図する策察	(4) 來品処理に因する試験	(1) 最適権肥売の核深	(1) 組織培養の簡易結婚後深	(1) 各作型に適した品種の複条	(2) 新品種の導入及び展示		
	究。	はいません。		-		凝品処理に関する質繁		ウイルスに関ナる実際		作型確立に関する試験				土城肥料亿因十名武赦	鉛級培養に関する試験	品種系統の関する試験			
		大 課 題				全種処理に関する試験		病虫蛋仿除化调する試験	:	栽培管理に関する領域					後兵苗育成に関する武権	品類系統四四十名試験			
	. 13	(A)						キクの栽培技術改塑											

7.7																			
四四年 20/2001	1900/01 中央武器委员	And the same of th													٠.				
Fig.		06~98.	06~98,	06~98,	85~90	85~90	84~85	条	85~90	85~90	然	袭	85~86		85~86		条	第 第 <	
No.	が、一般	(1) 超馬泉鄉城臺	(2) 連作障害作限する試験	(3) 土圾产品以及工品、	(1) 句米に因ける質素	(3) 昭緬の導入國西敦繁	(1) 监赛站海站的农深	(2) 優良系統の選抜試験	(3) 救培型猟立の試験	(4) 各種処理試験	(5) 品種の導入及び展示	導入就作	(1) ウイルス後に用,被核植物の	核徴発現に関する試験	(2) ウイルスフリー株と在来株の	比較限示	(3) 葡萄姑藤株のウムラス製師	(4) 戦険数格株のウイルメ物師	
光	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	上规肥料化因于各試驗		ng menend dil _a ngg a	品種系統に関する試験		後兵苗育成及び栽培管理	7至十 6 収累	·			導入就作	ケイケスに関する質感						
10	大・雑・語	東格位単に関する試験			品种系統に因する识赖		宿根カスミ草の苺入試作					その他の花卉	病虫語防除に関する試験			•			
ij	を は は に に に に に に に に に に に に に に に に に	バラの栽培技術改善					その他の花卉栽培技	金安華					イチゴの栽培技術政	杂					

·		t	 	·		 -					_		 								····
额州																					- Provinces
1086/87 年時對緊迫日	T X X X X X X X X X X X X X X X X X X X									多 中中大流花滨葱	メイトとしてきる		・11種類に関する品種適	心冥繁	·生育失趣調查	(ブドウ, キワイ、リン	1, 力人, 吊吊, 为牛,	ピワ、早生ウンショウミ	カン)		. !
100 PM		禁	 業	85~88	熱熱	"	*	85~88	条符	**************************************		紫	~98.		~98.						
面	2	(1) 植肥安苺栽聚	(1) 客面格遊館影站地の検深	(2) 游站線联用化戰墜	(1) 萊品処理に関する實際	(2) 各級的組內因少名實際	(3) シュード処理に関する質繁	(1) 有苗方法に國する試験	(2) 採苗時期に関する試験	公市中部 多数女子的	(1)でイングングラングングログイでくを入	(2) 品種導入と適応試験	(1) 11種類化関する問題的影響	(田林ナン, キウイ, ブドウ, ウ	メ、吊吊、ピワ、ウンショウミカ	ン、カキ、クリ、リンゴ、サクラ	ンた)				
究。	中線網	土壌肥料に関する試験	監察結婚に関する實際		各種処理に関する試験			台苗内因于石炭聚		30 年,7 年1日 71 24 日 28 日	まで大阪10g2 ので属		1.1種類に関する超額	流形就過							
每	大 線 題	栽培管理に関する試験	後良苗的成化因子名試験							All the sent that we want to	自治性状だらなりも対象		1 品種適匹試験								
· .	4 元 四 6												県園の栽培技術体系	る権法	(口谷イン, キワム,	ンドウ、ウメ、由市、	パワ. センツョウミ	ゼン, ゼキ, クリ,	ロンロ、セクルン米)	·	

Ř																		但しリンゴは、92年	2		
日 即 獨共 中田 28/9801		・松木及び挿木繁殖に関す	る子館牧塾																		
14 25		~18.		~98,	~98,		~98,				~98,		~98,		. ~98,			~16,			
野	是	(1) 台木質繋(キウイ、ブドウ,	ウメ, ウンショウ・カン, カキ)	(1) 哲米就験 (キウイ)	(1) わい性台木による密権政格試	愛(ああ, コンロ, サクシンボ)	(2) 普通台木による密植栽培武脈	(田本ナン, キウイ, ブドウ,	ケメ、ドワ、ケンショケッカン	カサ,クリ)	(1) 弱い自然形ង校演覧(ウメ	七七, 力干, 夕り)	(2) 約50円 発物数数 100000000000000000000000000000000000	カキ,クリ)	(1) 平龙农仕立箕畷(日本ナン,	キウイ、ンドウ)	-	(1) 複味対繋(日谷ナツ,キウイ,	ントウ、布布、パワ、ウンジョ	ウミカン, カキ, リンゴ)	
光	是	核木匠因する試験		は大い場上も演奏	密植栽培に関する試験						七木仕立て因する戦略				たな仕立に関する試験			果実肥大に関する試験			
地	次標の	11 繁殖高國沙多與繁			III 模植密度岩锡字多铁	釜					N 整故·典冠区图步中	鑫茲						V結束に関する試験			
E 25	<u>n</u>						:	:													

排		但しリンゴは92年	24									但しサクランボ穴	89年上り								
1096/87 伊斯姆黎西田	日本学生活士 10 /0001							 •													
57) B.S.		'91∼		′92~		.65~		~98,				~88.				~98,					
究 跳 題	中縣窗小縣窗	外線、品質に関する戦器 (1) 鉄道ひ戦数 (日本ナツ, アド	ひ、市市、パワ、リソロ・)	発起調節に関する試験 (1) 生及調節物質利用の検討(日	谷ナシ、ゾドク、カキ)	(2) ヘウス数粘の複写(ブドウ,	ケンジョケッセン	植肥管理に関する試験 (1) 米後勢所調査(日本ナン, 4	クイ、ブドウ、ウメ、市市、ア	つ, ウソショウ ルカン, カキ,	クリ, リンピ, セクツンボ)	(2) 福能観察(田糸十ン, キウム,	プドウ、ウメ、モモ、ドワ、ウ	ソシェウミカン、カキ,リク、	リンピ、ヤクルン光)	表宅虫野奈草筑 (1) 英语虫参斯副巻(田本ナツ,	キウイ, ブドウ, ウメ, モモ,	パワ、ケンショウニセン、カギ、	クリ、リンコ、ヤクシンボ)		
舟	大線超							VI土地管理に関する試	&							M 海害虫防除及び生型	原電防止対策				
[1] (1) (2)	ر 10				:	,										 					

		Γ									-								· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			************
*}	5																÷					
- THE	i i																					·
1986/87 组币注格值目		・早生ウンショウミカン選	律早生の校枯病が除試験				・モモの外眼打破に関する	其												-		
10		~98.					.86∼									85~95		85~90	06~58,		84~88	
	小場合	(2) 病害虫防除规準の検討(日本	ナシ、キウイ、ブドウ、ウメ、	出市, パレ、センショセッセン.	カキ,クリ、リンゴ、サクラン	.¥.	(1) 生理障容診断調査(日本ナン,	サウイ、ファウ、ウメ、由山、	ピワ, ウンシュウミカン, カキ,	クリ, リンゴ, サクランボ)	(2) 生理障害防止疾難の検討(日	オナシ、キワイ、フトワ、ワメ、	市市、パワ、ケンショウ、セン、	カキ,クリ,リンゴ、サクラン	~ K	(1) 指数统磁出版の体図更生に図	十七分沒是	(2) 協類除去に関する試験	(3) 土地利用で関ナる犠作体系の	確立	(1) 土壌分析と作物生育状態の調	K
於	4 深 選						鱼埋障等防止対策									土地利用介践十名對聚					土類米海に困する戦機	
10)	大県風															土地利用下限少名實際						
道 四 多 苗]															土地安鄉文統						

	 -				
并	<u>, </u>				
#	DIA.	i i			
1006/97 年晚新教育日	1000 OT 1 100 PARAMETER				
ME 04		184~87	森。	185~88	
爾	小。課題	(1)	(2) 解移 拓井 の 準 語 和 訳 聚	(3) 2分 投土 20 日本 2	:
深。深	中	破滅大の中を			_
静	大縣題	慰茶用水の組成解明			
£	2 U X 3	破業用水の改働対策			

